

はじめに

国際交流基金が「相互理解のための日本語」という理念のもと、2005年より開発してきたJF日本語教育スタンダード（以下、JFスタンダード）を、『JF日本語教育スタンダード2010（以下、JFスタンダード2010）』としてお届けします。

国際交流基金では、海外に日本語を普及するにあたり、日本語のさらなる国際化を目指して、日本語教育のさまざまな基盤整備に取り組んできました。JFスタンダードは、まさにこの基盤整備の中心的な役割を担うものです。

価値観が多様化し、人と人との接触や交流が拡大していく現代社会においては、言葉によるコミュニケーションの重要性がますます高まっています。言葉を通じた相互理解のためには、その言語を使って何がどのようにできるかという課題遂行の能力と、さまざまな文化に触れることでいかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重するかという異文化理解の能力が必要です。

『JFスタンダード2010』では、まず、日本語を使って何がどのようにできるかという能力に重点を置き、日本語の熟達度のレベルを提示しました。また、学習過程を記録し保存することの大切さを提案しました。多種多様な日本語教育の現場がいわば同じものさしを使うことで、世界中のどこで日本語を勉強しているも/教えていても、今自分が学んでいる/教えているレベルがどこにあるかを知ることができるようになります。また、熟達度を評価し、言語的・文化的体験を記録し振り返ることによって、課題遂行能力と異文化理解能力を育成し評価することができます。進学や留学、就職などで人が移動する際にも、それまでの学習成果や熟達度を正確に伝達できるようになります。

JFスタンダードの開発は、これまでの多くの研究知見や教育実践の再検討から出発しましたが、そのとき以来、内外の教育関係者・機関からの多大なご助言・ご協力を得て、今回の『JFスタンダード2010』の発表に至りました。ここに厚く御礼申し上げます。今後、『JFスタンダード2010』に広く各地の現場の声を反映させることを通じ、JFスタンダードの内容の充実と利便性の向上を目指してゆきたいと考えています。

JFスタンダードにより、教師、学習者のみならず、日本語によるコミュニケーションに関心のあるすべての人々が共通の基盤に立ち、日本語がより学びやすくなりまたその有用性がより明確にされることを通じ、グローバル化が進む世界において、日本語教育がさらに発展し国際相互理解が促進されることを願ってやみません。

2010年5月

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）